

# みくに



いちごの収穫

社会福祉法人 みくに園  
障害者支援施設 みくに成人寮  
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920  
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1  
HP: <http://www.teshimamikunien.com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

## 「パラリンピックへの思い」

副施設長 亀井 進吾

あけましておめでとうございます。昨年はラグビーワールドカップが日本で開催され、知識も経験もない私でさえ見入ることがありました。そして今年の7月24日東京オリンピック、8月25日東京パラリンピックと続きます。その中でも私はパラリンピックのアーチェリーに注目しています。

パラリンピックの歴史はアーチェリーから始まりました。1948年イギリスの傷病兵にリハビリを行う病院で、車いすのアーチェリー大会が開催され、1952年に国際大会へと発展。1960年の第一回パラリンピックに繋がります。

アーチェリーのプレイスタイルには選手の個性が光ります。車いすに座ったまま弦を引く方、口やあごを使って引く方も居ます。両腕のない方は足で弓を支えます。自分の体と向き合い、自分に最適な道具や補助具を付け、競技に挑みます。なんと言っても武器は集中力です。的との距離は50mと70m。手元1mmのずれが70m先では何十cmの差になります。アーチェリーは風の全く吹かない屋内で行われることはありません。競技はすべて屋外です。熱い日差しが照りつけることもあれば、風が吹くこともあります。瞬時に状況を計算し対応しなければなりません。

アーチェリーに限ったことではありませんが健常者の記録を上回ることもあります。2012年ロンドンパラリンピック銀メダリストのマット・スタッツマンは310ヤード(約283m)先の的を射抜いたギネス記録があります。それまでの記録は健常者の持っていた219ヤード(200m)というものでした。

パラリンピックのパラは「下半身不随(paraplegics)」という説とギリシャ語の「並んで立つ・対等」という説があります。戦争で負傷した兵士に生きる希望や勇気を与えてくれた経緯から私は後者を信じ、パラリンピックを見て希望と勇気を頂こうと思います。

## みくに園クリスマス会

12月13日みくに園においてクリスマス会を行いました。厨房職員が腕によりをかけたごちそうにみんなで舌鼓をうちました。礼拝では、福田牧師からのクリスマスメッセージに静かに心を寄せ、豊島教会聖歌隊の讃美歌の美しさに心が洗われる思いでした。

祝会では、各棟、音楽療法の発表、職員によるパフォーマンスで盛り上がりました。今回もこうしてみんなで元気にクリスマスのお祝いができたことに感謝しています。

1 番館 「みんなでジャンボリー♪」



2 番館 「Mステ」



3 番館 「元気に楽しく歌おう！鳴らそう！」



音楽療法 「合奏」

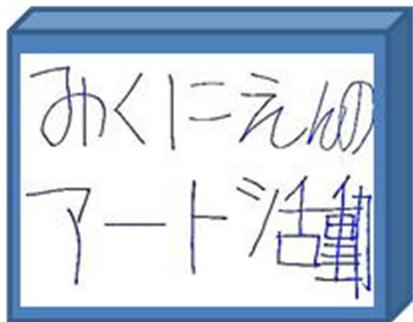


「サンタがみくに園にやってきた」



「聖歌隊による讃美歌」





タイトル文字：繁 朋宏



去る2019年11月4日～5日、サンポート高松にて開催された「香川県障害者芸術祭2019」の作品展において、アート活動メンバーである三枝美津子さんと喜多キヨ子さんの刺繍作品がダブル受賞！4日に行われた表彰式にも出席し、大勢の観客の前で表彰状を受け取りました。



香川県知事賞に選ばれた三枝さんの「コアラたち」。パッと見た瞬間、三枝さんならではのビビッドな配色に圧倒されますね。半年近くひと針ひと針刺し続けた大作です。



喜多さんの「タイガー」は高松市長賞を受賞。喜多さんらしい丁寧で細かい針目で、虎の表情や動きを見事に表現しています。

後日、改めて3番館でお祝いの会も開催されました。職員がプレゼンターとなって表彰式を再現。みんなで和やかにケーキを食べました。三枝さん、喜多さん、おめでとうございます！

(吉野 記)



# Challenge & チャレンジ

## <諦めないPart123> Uさんの仕事

Uさんはみくに園最高齢、今年で83才になる。「働かせてほしい」という本人とご家族の意向に沿って、現役バリバリのゴミ捨て隊長を勤めている。

ゴミ捨ては毎日2回、ゴミが多いときには2~3袋出ることもある。あまりにも重いときや雨降りのときは職員も同行して手伝っているが、基本的にはひとりで頼もしく運びきる。その昔船員をしていたこともあり、手先が器用でヒモの扱いに慣れていたり、一輪車を軽快に押す身体の使い方もお見事なのだ。

中には高齢者にそんな仕事をさせるなんて、と感じる方もいるかもしれない。けれど周りがしっかりと見守りつつ、働く場所を取り上げられることなく日常生活を続けるということは、日々の充実感には必要に思える。

新たな課題に挑んでいるわけではないが、年齢を重ねても同じ仕事を持続するということは、とても挑戦的なこと。

そして今日もUさんはニヤリと笑って「ヨッシャ、銭捨ててこよか」と冗談を言い、ゴミ捨てに出かける。

(高橋 記)



## <諦めないPart124> Fさんのポイントカード



いつも農業の活動を頑張っているFさん。農業班が休みの日は、退屈そうに過ごしている。もともとお手伝いが好きなFさんに日々の役割があるとよいのではと考え、朝夕の食事の準備を手伝ってもらうことにした。Fさん用のポイントカードを作り、食事の準備を手伝うごとにポイントとしてシールを貼る。ポイントが貯まればFさんの大好きな時計とリストバンドがもらえる。

だが初めはなかなかやる気が出ない様子。どうすればFさんのやる気が出るのか職員間で話し合った。モチベーションが続くようポイントカードの設定を見直し、達成までのポイントを30から10にした。また、Fさんのタイミングで手伝いが開始できるような声掛けを考え、試行錯誤した。日が経つにつれ、だんだんと食事の準備ができるようになった。

今では自ら進んで食事の準備に来ることができ、楽しんで準備をしているのが伝わってくる。ポイントカードにシールを貼る時は、誇らしげに職員に催促しに来る。時計とリストバンドがもらえる日が来るのを楽しみにしているようだ。

毎日のように食事の準備に来てくれるため、すごく助かっている。「ありがとう」と職員が感謝を伝えると、満面の笑みを浮かべる。Fさんとの関わりを通じて、感謝の気持ちを言葉にして伝える大切さと、役割があることの大切さを学んだ。

(丸岩 記)

## 豊島・犬島 研修旅行

1 番館 小澤拓也

みくに園のある豊島は瀬戸内国際芸術祭（以下、瀬戸芸）が始まって以降「アート島の島」として外部から認識されるようになりつつある。では、芸術祭とは何だろう？というわけで昨秋、我々職員はその舞台となっている犬島、そしてホームグラウンドである豊島のアート施設を巡る研修旅行に出かけた。

そもそも国際芸術祭のはしりと目され100年以上の歴史を誇るヴェネツィア・ビエンナーレの目的は、観光客の誘致だったらしいのだが、このイベントはツーリズムの枠内に収まらず、世界に大きなインパクトを与え続けている。瀬戸芸もまた、美術の作り手にとっては大きな機会と試練が与えられる場として機能し、観光客にはただの娯楽ではなく、美術そのものやその背景を読み取っていく良質な学びの場を提供しているように見える。



「犬島精錬所美術館」は柳幸典氏のアート

作品と近代化産業遺産である精錬所の佇まい、それに高度な環境システムを導入した三分一博志氏の建築が見事に調和し近代人類が犯してきた罪を観る者に鋭く突きつけてくる。身の引き締まる思いがした。一転して、「くらしの植物園」は自然サイクルのあるべき姿を動植物に囲まれながら体感でき、心和む場所だった。どちらも自然との共生を表現しているようだが、対照的なアプローチなの面白い。



犬島は豊島から容易に眺める事ができるほどの距離に位置するがそこで重ねられた歴史は豊島とはまるで別世界のような。船で25分かけて豊島に戻ると、こちらでは豊かな自然の中で、生と死をテーマにした作品群を鑑賞することができる。



「豊島美術館」はその全体で万物の生から死までの流れをあらわしているかのようだ。「心臓音のアーカイブ」は墓標の新たな形と捉えればいいのだろうか。「豊島横尾館」の絵画群に至っては死後の世界をも提示する。そこは案外と暗くない、現世と変わらない世界である事に幾ばくかの安堵を覚える。

このように、半日ぶらりと散策するだけでも数々の発見や思索が展開されていくことになるだろう。何を感じ取るかは人それぞれ。この研修旅行のような形で大勢で感想を語り合いながら歩くのは楽しい。そして合間にふと目にする瀬戸内の景観は例えようがないほどに美しい。

今回巡った2島だけでなく、瀬戸芸の舞台は10以上の島や地域で構成されていてそれぞれの島が持つ特徴や歴史に寄り添ったアート作品が展示される。3年に1度のイベントだが、恒久施設は会期外でも鑑賞することができる。そしてスタッフがよく着ているTシャツには、019と



いった3桁の数字が記されていることに注目したい。これは開催年を記したもので、瀬戸芸もまた、ヴェネツィア・ビエンナーレと同じく、100年の時を刻もうという野心を持っているのだ。



みくに園と瀬戸芸の関係も今後、長く続くことになりそうなことだし、いずれオールみくに園で作品公募にチャレンジすれば皆でいい夢を見られるかもしれないと、ふと思った。



## 故高田久理事長を偲ぶ会

2018年12月29日に故高田久理事長がお亡くなりになり1年が過ぎました。みくに園開所当時の旧職員のうち、豊島在住の方々をお招きして、1月17日に偲ぶ会を行いました。先輩の方々から故理事長の思い出話を伺っていると、故理事長のおっしゃっていた言葉がひとつひとつ浮かび、胸がいっぱいになりました。

自家用船「みくに船」を運航、いち早くITシステムを取り入れるなど、いつも最先端を走っておられました。最後には理事長が愛した「故郷」を心を込めて歌いました。「理事長、私たちの声は届きましたか？」



### <行事予定>

- 2月 3日 節分（お菓子まき）
- 2月14日 バレンタイン
- 2月20日 土庄町社会福祉大会
- 3月 3日 ひな祭り
- 3月16日 避難訓練・検査（消防立会）
- 4月 お花見



## 編集後記

新年が明け早くも1ヶ月が過ぎました。まだまだ寒い日が続いていますが、窓の外には小鳥たちが木の実をほおぼる姿が見えます。

2020年はどんな1年になるのでしょうか。皆さまが健やかに過ごされますようお願いしております。本年もよろしくお祈り致します。

\*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920